



遊 道 楽 歩  
( 雑 感 )



言葉を話さないからいい

長野 修二





# 目次



犬と生活していると言葉がないのがよいのでしょうか。

お互い目を見て体を使って会話することになりますが、マギーがして欲しいことがあれば目で合図し行動を起こし、私に自分の意思を伝えようとします。

犬との会話は行動が必要になりますが、言葉がないだけわかりやすく理解しやすいものです。

おやつがほしければ、おやつが欲しいという行動をし、トイレや散歩に行きたいときも私に態度で知らせてきます。

また、自分の希望と違う場合は、違うという態度を示します。

言葉がないからこそ体を使い意思疎通するのですが、その分お互いの意思が通じたときお互いの心がかよいます。

私はもともと言葉がでない、いわば語彙も少なくうまく人に伝えることができないほうですから人との会話は苦手です。

相手の人からみても私がなにを考えているのかわからないようでも人付き合いもよくないほうでしょうか。

仕事では人と会話することが必要になりますが、互いに理解できる人は少ないものです。

会議なども苦手でしょうか。

出席者のそれぞれがどのように理解しているのかもわかりませんし、参加していても分かり合えるなどということはないと感じていました。

むしろ他の人に誤解されようが自分の決断で物事を押し進めてきました。

いわば理解する人はするし、理解しない人はどこまでいっても理解しないものだ、自分に言い聞かせて仕事をしてきました。

人間はいろいろなことを言葉で表現できるだけに、その本当の意味理解することはむずかしいものです。

しかも、行動が伴わない人が多く、いわゆる言いつばなしですから、さらにたちが悪いのです。

私は、このような人間社会における言葉に辟易しています。

それ比べて犬との生活は、常に行動が優先され、それにお互いが応えることで生活が成り立っています。

体を使わないむだな会話がいません。

互いの行動で意思の疎通ができるという体中心のコミュニケーションが心地よいものとなります。

喜びも悲しみも、遊びも怒りも体で表現します。

日々、そのときそのときにわくわくした感動があります。

企業の中にこのようなわくわく感がないのは、経営が数字中心で会話に体

を使うこともなく、ただ言い合う（話し合う）ことですべてが完結すると思っているからかも知れません。

本来、仕事の現場では言葉は少ないものです。

現場の前提は、物事を通してなにかを感じる人間がいるかどうかです。

しかも、わくわくするような感動は体を使うことで感じるものです。

もっとも、頭も使いますが、決して言葉は多くありません。

私は家族とも多くの言葉をかわすほうではないでしょう。

理由は、話せば話すほどお互いを理解することがむずかしくなるからです。

むしろ言葉がない「間」が一番大切なような気がします。

後は、自分の体を使って思いを伝えることでしょうか。

そのように行動すれば、意思疎通できるための行動はたくさんあることがわかります。

楽しい日々は、常に言葉より行動からかも知れません。

人生とは、家族やマギーと「心の旅」を続けていくことでしょうか。



---

言葉を話さないからいい

---

著 長野修二

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---